

荒川水系河川整備計画(素案)

河川整備の実施に関する事項(案)

～ 河川の維持に関する事項～

河川の維持の目的、種類及び施工の場所

- 河川調査
- 河川管理施設の点検・維持管理
- 河道の維持
- ダム of 適正管理・運用
- 流水の適正把握・調整
- 水防活動の支援
- 警戒避難体制整備の支援
- 河川情報の一般提供
- 河川愛護意識の啓発

河川調査

- 水文・水質観測(雨量、水位、地下水位、水質)を実施する。
- 縦横断測量を実施する。
- 環境調査(動植物生息、利用状況など)を実施する。



上関水位・流量観測所



高水流量観測状況



環境調査状況



栃倉雨量観測所



横断測量状況

動植物区分	調査年度
底生動物	H7、H12
魚介類	H7、H12
植物	H4、H9、H14
陸上昆虫類等	H5、H10、H15
両生類・爬虫類・哺乳類	H6、H11
鳥類	H8、H13

動植物生息調査

河川管理施設の点検・維持管理

- 河川管理施設の破損や異常の有無を年間1～2回点検(堤防、樋門8箇所、水門1箇所)を実施する。
- 維持修繕の適切な実施により、ライフサイクルコストの低減に努める。
- 洪水時には、各施設毎の操作要領により、適切に操作する一方で、高齢化の進展による操作員確保の困難化に対応する遠隔操作化について検討する。



河川敷等の利用のパトロール状況



樋門の点検状況

河道の維持・管理

- 洪水の安全な流下を阻害する河道内の樹木の伐採を鳥類等の生息状況に配慮しつつ実施する。
- 洪水等により異常堆積した土砂は、速やかに除去する。
- 堤防の機能維持のため、除草は梅雨降雨前の6月上旬と台風到来前の8月下旬の年2回実施する。



樋門前の維持浚渫



樹木の伐採状況



除草状況

ダムの適正管理・運用

- ダムの機能を最大限発揮するとともに、長期に渡って適切に運用するため、日常的な点検整備、老朽化施設等の修繕を実施する。
- 操作規則等に基づく、適切なゲート操作を実施する。
- 渇水時に下流河道で必要な流量を確保するため、季節別の補給方法について検討の上、実施する。



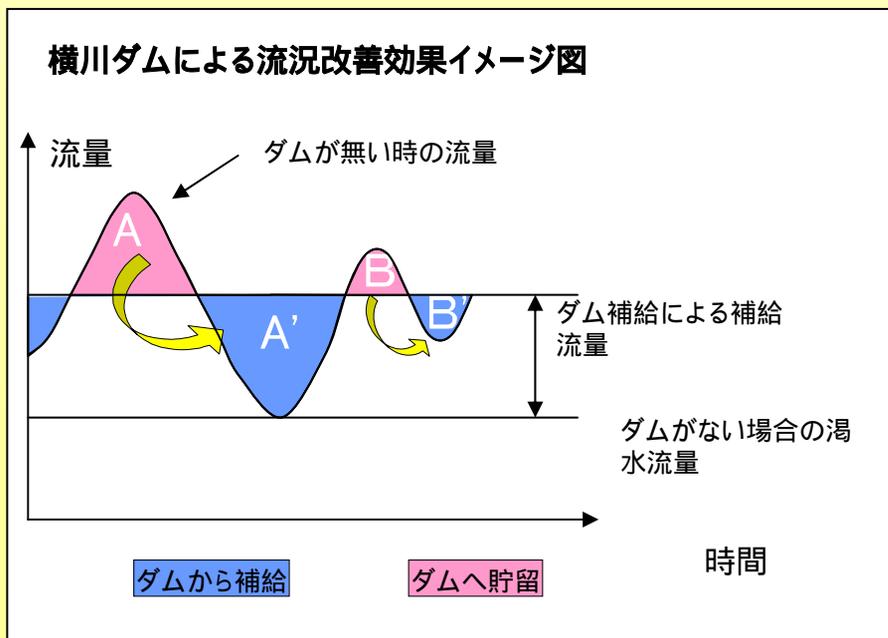
大石ダム全景



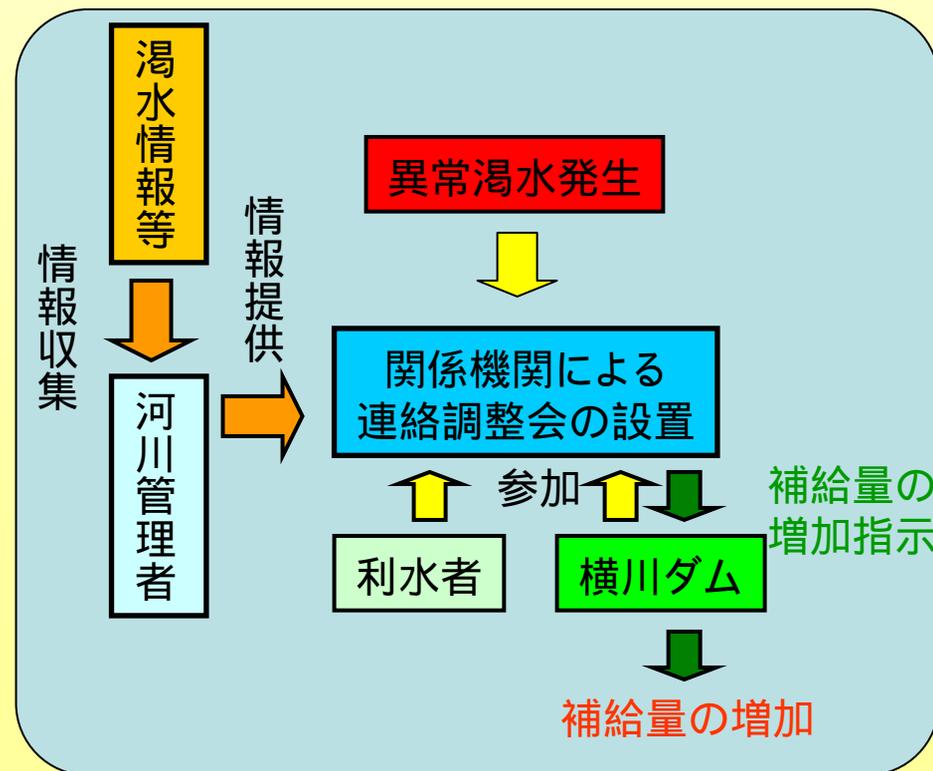
横川ダム完成イメージ図

流水の適正把握・調整

- 渇水時には、関係機関による連絡調整を行い、渇水による利水、環境被害を最小限に抑える。
- 必要な渇水情報等の的確な収集・提供体制を整備する。



不特定補給のイメージ図



水防活動の支援

- 水防工法の講習会や水防訓練を毎年実施する。
- 水防資材を十分に備蓄する。
- 光ファイバーを利用し、水防情報の沿川自治体と情報の共有の高度化を推進する。
(H15関川村、順次沿川自治体へ拡大予定)
- 高齢化による水防団員の人手不足に対応するため、機械化水防の支援体制の整備を検討する。



水防訓練状況(月の輪工法)

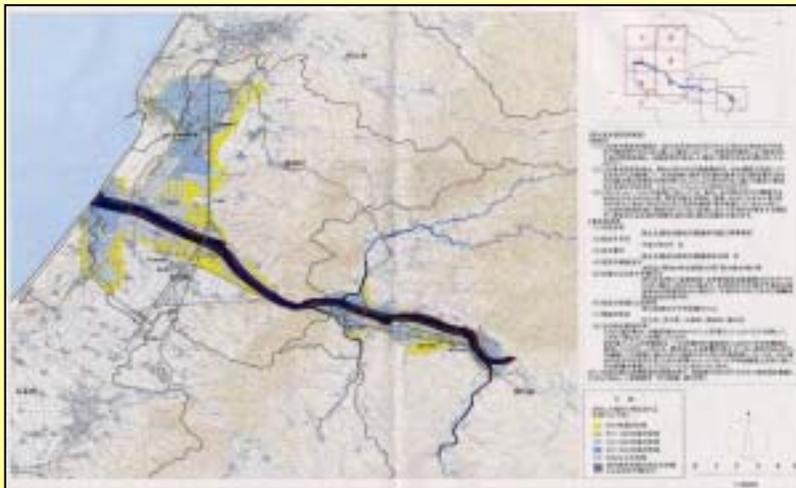


大津水防倉庫

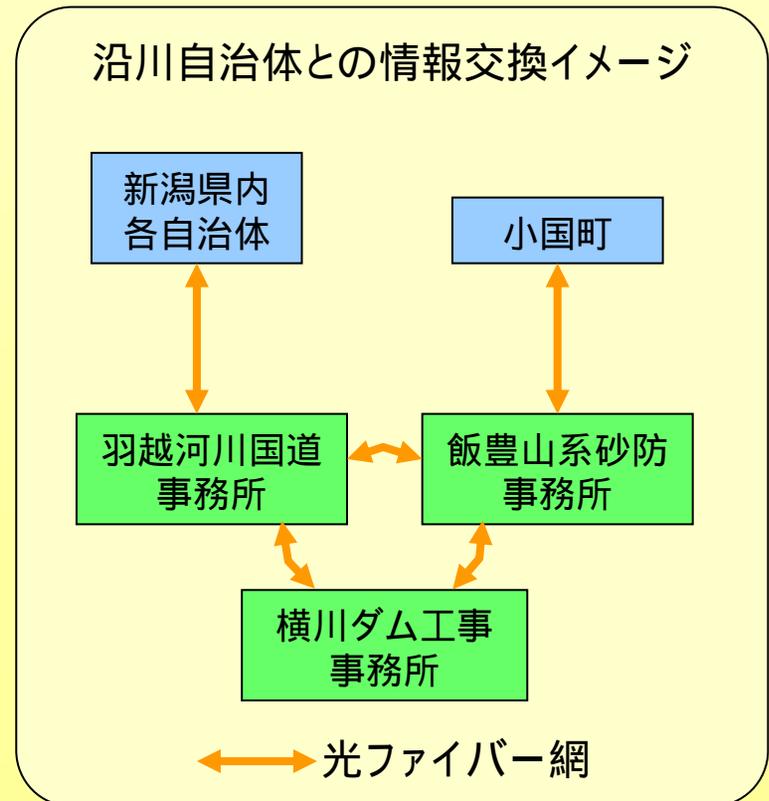
警戒避難体制整備の支援

- 浸水想定区域図(平成14年4月30日公表)を作成し、必要に応じて更新する。
- ハザードマップ作成に技術的支援を実施する。
- 光ファイバーを利用した洪水情報及び警戒避難情報の共有の高度化を推進する。

荒川浸水想定区域図



沿川自治体との情報交換イメージ



河川愛護意識の啓発

- 河川内の施設での総合学習や生涯学習の実施による河川への関心を向ける。
- 自治体の広報紙などを用いた川に関するイベントや河川内の利用施設などの紹介に関する広報の実施する。
- 河川住民、自治体と一体となった河川愛護意識の啓発を行う。



大石ダムまつり



荒川町金屋水辺の楽校での総合学習